

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台1-2-5 TEL03-5993-1125 令和6年4月発行



北区こぼれ話 第176回
王子稲荷で「角のり」～興行としての開帳～



以前にこの「北区こぼれ話」でも取り上げた寺社の開帳。普段は見せていない秘仏や宝物を一定期間公開することをいい、より多くの参詣客を呼び寄せて浄財を集め、それで堂社の修復をしようとする意図から江戸時代には盛んに行われました(「北区こぼれ話」第94回「宗派の垣根を越えて—江戸時代の寺社の開帳」参照)。そして、先の「こぼれ話」でも紹介していますが、こうした開帳の際には段々と見世物小屋なども建ち並ぶようになり、信仰というより興行的な色彩が強くなっていったことが指摘されています(肥留間尚『江戸の開帳』吉川弘文館、1980年)。

さて、ここに1枚の引札(広告のこと・図1)があります。見出しには「角のり」とあり、木場の筏師たちでしょうか、水に浮かべた材木上で様々な業を披露している姿が描かれています。詞書の部分を読むと「この度、王子稲荷社ご開帳につき、木場連中をお呼び立てに預かり、境内に於いて未熟なる業ご覧に入れ奉りたく候」とあります。すなわち、彼らは王子稲荷社の開帳にともなって境内でパフォーマンスをするというのです。

絵の右側に注記があり「天保十一子年、十二社池



図1 『広告研究資料第3巻』(国立国会図書館デジタルコレクション)

上に於いて」と記されています。十二社とは角善村(新宿区)の総鎮守十二社熊野神社のことで、絵が天保11年(1840)4月2日から催されていた同所での開帳(『武江年表』)の際の様子を描いたものだということがわかります。天保11年といえば王子稲荷社でも開帳が行われているのですが、稲荷社では2月28日からと十二社よりも早いので、この引札は、天保11年以降のものであることが知られます。そして「角のり」自体が3月17日から始まることなど様々な情報を整理して考えると、これは嘉永6年(1853)2月20日から60日間にわたって実施された開帳だということがわかります。

嘉永6年の開帳は、天候に恵まれず、参詣人も少なかったといえます(『武江年表』には「雨天の日多く詣人少し」)。そこで再度幕府に願い出て5月22日まで会期が延長されることになるのですが、併せて何か人集めになるようなものが企画されたのかも知れません。改めて詞書を読むと「お呼び立てに預かり」とあって、彼らが王子稲荷社(正確には別当金輪寺)から招かれて興行していることがわかります。開帳自体が2月20日から行われていることを考えると、やはり集客のための艇入れだったと想像するところでは。

現在のところ王子稲荷社と木場連中との間に直接的な関係は確認できず、やはり興行的な性格の強いイベントだったと思います。信仰から興行へとその比重が移っていったとされる寺社の開帳、そんな実態を王子稲荷社でも垣間見ることができる資料です。

でも、十二社には大きな池がありますが、王子稲荷社には材木を浮かべるほどの大きな池がないので、どのようなかたちで「角のり」を実演したのでしょうか。

【地域資料専門員 保垣孝幸】

北区の部屋・今月の展示「北区内に領地をもっていた「御府内」の寺社」

【展示期間】 3月30日(土)～4月24日(水)

【展示場所】「北区の部屋」企画展示コーナー

北区域が属する武蔵国豊島郡は、江戸時代を通じて突出して寺社の所領が多い特異な様相を示していて、北区の村でも支配する領主が「御府内」の寺社である場合が少なくありません。そこで今回の展示では、北区に所領をもっていた「御府内」の寺社について紹介します。



古文書入門講座「古文書でみる江戸時代の北区」開催のお知らせ

北区の旧家に残された江戸時代の古文書をテキストに、くずし字の解読方法や地域の歴史について学習します。

★日時 令和6年5月10日～6月14日
(毎週金曜日・全6回) 14～16時

★場所 中央図書館 3階ホール

★申込 往復はがきにて下記必要事項を記入の上、4月19日(金)(必着)まで

- ・往信用裏面：講座名、郵便番号、住所、氏名(よみがな必須)、年齢、電話番号
- ・返信用表面：申込む方の住所、氏名

★宛先 〒114-0033 北区十条台1-2-5 北区立中央図書館・図書係
TEL:03-5993-1125 / FAX:03-5993-1044

★講師 保垣 孝幸 地域資料専門員

★対象 北区在住・在勤・在学で18歳以上

★募集 20名(初心者優先・抽選あり)



地域資料専門員による「公開歴史講座」を開催しました!



黒川徳男 地域資料専門員

中央図書館内にある「北区の部屋」では、二人の地域資料専門員が北区の地域資料に関するさまざまな業務を行っています。「公開歴史講座」の講師もその一つで、今年度は2月24日(土)と3月9日(土)の2回開催しました。

2月は「関東大震災から100年—検証・北区の被災と復興—」、日本近現代史研究家でもある黒川地域資料専門員が講師を務めました。昨年は関東大震災(大正12年(1923))からちょうど100年だったことからテーマに取り上げたとのこと。当時の被害について、「北区の部屋」が所蔵する被災前後の区内各地の建物の写真を比較し、当時の新聞記事や北区史などを紐解きながら、災害規模とそこから復興までの道のりを丁寧に解説しました。

3月は「江戸近郊地域と西ヶ原の植木屋」で、日本近世史研究家の保垣地域資料専門員が講師を務めました。江戸時代に西ヶ原にいたとされる植木屋さんのお話です。江戸時代の植木屋と言えば、ソメイヨシノの桜で有名な染井がよく知られています。しかし、北区域にも植木屋は存在し、8代将軍吉宗の元で飛鳥山の植樹にも携わっていた記録があることを紹介しました。また、西ヶ原には浮世絵にも描かれるくらい有名な牡丹屋敷もあったそうです。その浮世絵は現存しているか不明で見るとは叶いませんが、当時の植木屋の発展ぶりがうかがえる話でした。

どちらの講座も大変興味深く、参加募集時には大勢の方からお申し込みをいただきました。アンケートの感想も大変好評なものばかりでした。



保垣孝幸 地域資料専門員



北区の部屋だより 第177号

2024年5月



編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」 〒114-0033 北区十条台1-2-5 TEL 03-5993-1125 令和6年5月発行

北区
こぼれ話
第177回

ススキが繁ると村人がもうかる

東京市が編さんした資料集『東京市史稿』（遊園篇 6）掲載の公文書によれば、明治 20 年（1887）の飛鳥山公園は、萱（ススキなど）が年々繁殖し、サクラの生育を妨げる状態になっていたとあります。

ススキは、多年草で、とても繁殖力が旺盛です。除去する場合、問題となるのが地下茎です。地上に出ている茎の部分を刈り取っても、地下茎が残っていると、再び芽を出し繁殖し続けます。さらに、何年も放置されたススキの地下茎は、とても固く大きく広がっています。根絶やしにするためには、地下茎そのものを掘り出す必要があるのです。

この公文書には、ススキの除去について「掘起し」や「開墾」という言葉が使われています。現在のように除草剤があれば話は別ですが、それが無い時代、草原のようになったススキを取り除く作業は、土木工事のようなものでした。その公文書の仕様書によれば、合計 3030 坪を深さ 1 尺（約 30 センチメートル）掘り起こして地下茎を取り除き、跡を平らにし、清掃をして完了という手間のかかる作業でした。



熊谷源左衛門の碑

このことについて、東京府の飛鳥山公園地世話係は、王子村戸長（村長のような役職）の熊谷源左衛門と話し合い、工程を決めました。

それによれば、労働力としては、延べ人数 120 人が必要とされました。賃金は 1 人あたり 25 銭。人件費として合計 30 円が必要でした。なんと、そのうち 25 円を寄付したのが、飛鳥山の隣人、渋沢栄一でした。渋沢は、飛鳥山公園に何かと気を配り経済的支援を惜しまなかったのでしょうか。

さらに、この文書には重要な但し書きがあります。それは「工事は例に拠り所轄戸長に扱はする見込みなり」という一文です。これは、土木請負業者や造園業者ではなく、戸長に作業を任せるという意味です。つまり、戸長役場が住民を直接雇用して工事を実施するのです。かつて、戦前戦後の区役所でも、道路修繕などの土木工事に、失業対策事業として直接雇用を行なった時期がありました。それと同様に、ススキの除去についても、業者による中間搾取がない形での雇用がなされたのです。この工事の形態は今回だけではなく、恒例の方法だったようです。飛鳥山公園に限ってみただけでも、サクラやモミジへ肥料を施す作業などについて、ススキの件と同様に、戸長へ「手間賃」を渡しているのが確認できます。

このように、飛鳥山公園の維持を通じて、王子村の人々は経済的な潤いを受けていたのです。

（地域資料専門員 黒川徳男）

北区の部屋 今月の展示

消えた貨物駅—ありし日の写真でたどる—

展示期間：4月26日（金）～5月22日（水）

展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

鉄道による貨物輸送は、近代日本の経済成長を支える大動脈でした。しかし、高速道路の整備などモータリゼーションの発展は、鉄道貨物の取扱量を減少させていきました。各主要駅にあった貨物取扱所（貨物駅）は次々に廃止され、コンテナ車とタンク車以外の様々な貨車は、解体もしくは売却されていきました。今回の展示では、時代の波とともに消えた、区内にあった貨物駅について多くの写真を用いてご紹介します。

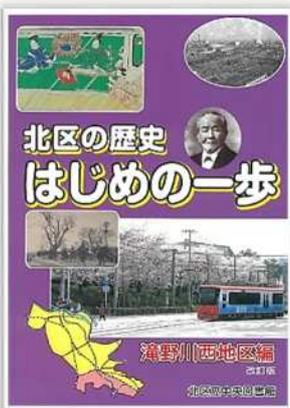


北王子駅（日本製紙物流内）の駅名標

平成 26 年（2014）撮影

中央図書館刊行物「北区の歴史はじめの一步」

滝野川西地区編改訂版を刊行しました！



書誌番号：B 13371752

「北区の歴史はじめの一步」は私たちの住む北区をもっとよく知ってもらうために、北区を7地区に分けて作成した地域学習の入門書です。それぞれの地区の特徴をわかりやすい解説と目で見て理解しやすい多くの図版で紹介しています。毎年学校を通して、区立小学校 3 年生児童全員に該当する地区編をお配りしています。

また、区内全図書館で閲覧・貸出でき、下記場所で販売もしておりますので、ぜひご覧ください。

販売場所：中央・滝野川・赤羽図書館、飛鳥山博物館、区政資料室（区役所第一庁舎1階）及び、区内一部書店 *詳しくはお問合せください。

🌀DVDを観て、北区の銭湯めぐりはいかが？🌀

「北区の部屋」に入荷した新しいDVDをご紹介します！

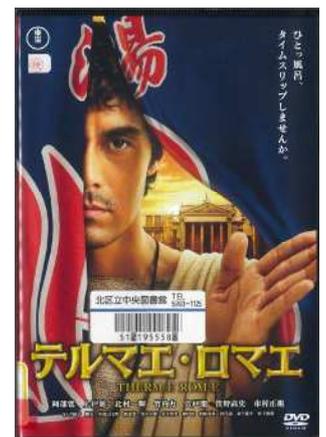
①「テルマエ・ロマエ」 どの外国人キャストよりもローマ人らしいと評判になった阿部寛さん主演の本作は、劇中の銭湯シーンに区内の実在する銭湯が使われています。

②「せんとうとまち・ひととひと」 広報番組「住めば、東京北区！」シリーズ Vol.140、北区政策協働事業の採択プロジェクトとして、銭湯を中心とした地域コミュニティの再生に取り組む「せんとうとまち」に密着し、メンバーからみた北区の銭湯の魅力をお届けします。

あわせてお楽しみください。

「テルマエ・ロマエ」資料番号：B 13360685

「せんとうとまち・ひととひと」資料番号：B 13373189（手話あり）B 13373190（手話なし）





北区の部屋だより

2024年6月 第178号



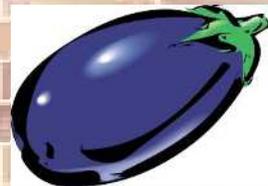
刊行物登録番号 5-2-167

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 令和6年6月発行



北
区
こぼれ話
第178回

江戸時代、北区域の村々の 名産？！大根・瓜・茄子



江戸時代の北区域の村々の様子が知られる史料として安政2年(1855)に作成された「武州足立郡川口・豊島郡岩淵両宿組合三拾三ヶ村地頭性名其外書上帳」という帳簿があります。これは浮間村を除く北区域の村々が属していた「川口・岩淵両宿三拾三ヶ村組合」について、各村の石高や家数、人口、各領主の姓名、さらには村内の名所旧跡などを書き上げた帳簿で、組合村を支配する関東取締出役に提出されました。『北区史資料編近世2』（東京都北区、1995年）に全文が掲載されているので興味のある方はご覧いただければと思いますが、ここに村で生産されている作物が「所産物」として書き上げられており、各村でどのようなものを作っていたかを知ることができます。

さて、この史料を改めて見ていくと、岩淵宿および区内16の村のうち下村、袋村、赤羽根村、上十条村、下十条村、上中里村、中里村、梶原堀之内村、滝野川村、稲付村、田端村と、実に11の村で「大根・瓜・茄子を作り、江戸へ売り出し候」とあって、大根、瓜、茄子の生産が盛んだったことが知られます。これだけを見ると「へえ～、北区って昔、大根や瓜、茄子なんか作っていたんだ」で終わりなのですが、これは本当なのでしょうか。

例えば、地形的に見ても滝野川村や稲付村などが沖積層である武蔵野台地上に位置する村である一方、下村や梶原堀之内村

は東京低地に位置しています。こうした村々が、主として同じ作物を生産していたとは到底思えないのです。では、何故、このようなことになっているのでしょうか。実は、江戸時代にはこうした村柄を書き上げ提出する際には、それを伝える通達とともにこうした形式で書きなさいといった雛形と一緒に回ってくるのが往々にしてあります。その雛形を手本にしつつ、家数や人数、領主の姓名などはそれぞれの村で正しく書き上げたものの、「所産物」については、雛形に書いてあった「大根・瓜・茄子を作り、江戸へ売り出し候」をそのまま書き写し提出したことが想像できるのです。「特記するほどの産物ではないが、まあ、うちの村でも作っているからこれでいいや」といったぐらいの感覚だったのかも知れません。事実、明治期に作成された『東京府志料』では、この11の村のうち大根（萊菔）、瓜（越瓜）、茄子を物産として挙げているのは赤羽根村、上十条村の2ヶ村だけで、茄子を書き上げているのは先の2ヶ村を含めても4ヶ村のみ、大根は少し多くて8ヶ村となっていますが下村や上中里村、梶原堀之内村に至っては大根も瓜も茄子も物産として記載していないのです。

史料がないと昔の様子がわからないのも事実ですが、史料があるからといって、それが本当なのかどうかは、また、別の問題なのです。

（地域資料専門員 保垣孝幸）

北区の部屋 今月の展示

北区の都電停留場

- 展示期間：5月24日（金）～6月26日（水）
- 展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

現在、都電荒川線（東京さくらトラム）の停留場は30。
このうち6つの停留場が北区に所在しています。

今回の展示では、沿線案内ではなく、この停留場自体を
中心に紹介します。



～ 古文書入門講座「古文書でみる江戸時代の北区」はじまりました ～



講師：日本近世史研究家
保垣孝幸 地域資料専門員

5月10日（金）に古文書入門講座（全6回）が開講しました。古文書を読み解くための基礎知識や字典の使い方を学びながら、くずし字を一文字ずつ読み解いていきます。テキストは北区に残る実際の古文書です。古文書特有の表記方法や言い回しだけでなく、その時代背景も解説していくため、訳し終えると、当時の北区の村々の様子や農民の生活が目に見えるようでした。受講生の皆さんは、大変集中して古文書に取り組んでおり、古文書に対する関心の高さが伺えました。



新一万円札発行 カウントダウンプロジェクト

渋沢栄一関連展示のご案内

7月3日に渋沢栄一が新一万円札の顔になるのを記念して
関連展示を行います。

【展示期間】6月1日（土）～7月24日（水）

一般むけ「お札とお札になった人々」

※ミニパネル展も同時開催します。

場 所：中央図書館1階 総合カウンター前

（ミニパネル展：1階エントランス）

児童むけ「日本経済界の父・飛鳥山と縁が深い
渋沢栄一がお札になった！」

場 所：区内各図書館児童コーナー



中央図書館の北区の部屋では、渋沢栄一翁に関連する資料を常設展示しております。
この機会にぜひ、お立ちよりください



北区の部屋だより 第179号



2024年7月



刊行物登録番号5-2-167

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」 〒114-0033十条台1-2-5 Ⅸ03-5993-1125 令和6年7月発行

北区こぼれ話 第179回

渋沢栄一と福沢諭吉の少年時代 —祈禱師の嘘を見破る—

令和6年(2024)7月3日、渋沢栄一の肖像による新一万円札が発行されます。さようなら福沢諭吉先生。あまりご縁がありませんでしたが、お世話になりました。

さて、この二人には紙幣の顔以外にも、様々な共通点があります。ともに天保の時代に生まれ、幕末に青年期を迎え、民間の立場から日本の近代化に尽力したという点です。そして、資料的に似た部分もあります。それは、ユニークな語り口の自伝を残したという点です。渋沢の自伝の名は『^{あまよがり}雨夜譚』です。福沢のものは『^{ふくおう}福翁自伝』です。維新の激動期を生き抜いた人々には、人生を語ることが求められたのでしょう。勝海舟の『^{ひかわせいわ}氷川清話』などもその例です。

渋沢と福沢の自伝では、少年時代の記述に面白い共通点があります。それは「^{まとうし}祈禱師の嘘を見破る」というエピソードです。渋沢の場合は、病気がちな姉のために、祈禱師の男が家に呼ばれました。その男は、渋沢家で炊事をしていた女性に目隠しをし、呪文を唱え始めました。すると、その女性は神に^{ひょうい}憑依されたような状態になり、この家には無縁^{ぼとけ}仏が崇めているなどと語り始めました。一種の催眠状態のようなものでしょう。渋沢少年が「では無縁仏の没年は何年前のことか」と尋ねると、その女性は「およそ5、60年前」と答えました。すかさず渋沢は、その年号を問いました。すると、天保3年と答えたのです。彼は、それでは23年前のことになる。神様が年号を間違えるのはおかしいと、インチキを見破ったという意味の回想をしています。

『福翁自伝』にも、似たような記述があります。福沢少年は、神社の御札^{おふだ}を踏んだり、ご神体をすり替えたりして、それでも罰は当たらないと面白がっていました。ある日、福沢家に、女性が訪ねてきました。その人は、誰にでもお稲荷様を憑依させることができるというのです。人に御幣^{ごへい}を持たせ、その御幣が神の力で自然に動き出すのだそうです。福沢少年が「^{おれ}乃公がその御幣を持とう」と言ったところ「坊さんはイケマヘン」(大阪弁)と拒否されました。そこで「今誰にでも言ったじゃないか、サアやって見せろ」と困らせたとあります。福沢が相手では、^{ぶん}分が悪いと感じたようです。

渋沢も福沢も、自らを科学的な判断力を持った少年だったと強調したかったのです。西洋文明を取り入れる前から、自分は合理的な思考をしていたのだという主張です。「時代が俺に追いついた」という開明的リーダー像です。おそらく、それが文明開化や近代化を推進した人々に共通する自負だったのでしょう。

(地域資料専門員 黒川徳男)



北区の部屋
今月の展示

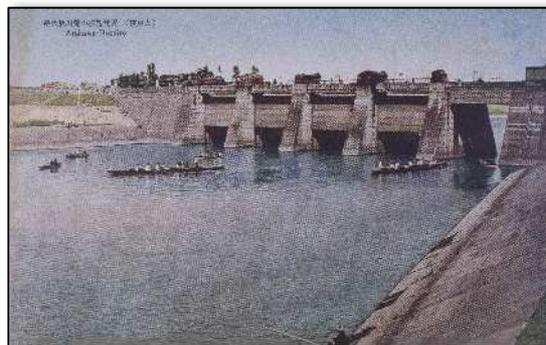
旧岩淵水門と荒川放水路
- 通水 100 年 重要文化財指定へ -

■ 展示期間：6月28日（金）～7月24日（水） ■ 展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

大正13年（1924）に旧岩淵水門が完成し、今年で100年になります。この記念の年に、旧岩淵水門が国の重要文化財に指定されることが決まりました。

明治43年（1910）の関東大水害を契機に、東京を大水から守るべく造られた旧岩淵水門と荒川放水路。古い水門はその役目を終え、昭和57年（1982）から新たな岩淵水門（青水門）が活躍しています。現在では、地球温暖化による降雨量の増加や台風被害の甚大化による河川の氾濫が懸念され、水門や放水路の重要性はさらに高まってきています。

北区の部屋では、旧岩淵水門通水100周年と国重要文化財指定の答申を記念して展示をおこないます。ぜひ、ご覧ください。



赤く塗られる前の旧岩淵水門の絵葉書

渋沢栄一に
会いに行こう

～7月3日、渋沢栄一の新一万円札が発行されます～
新紙幣発行記念 関連展示のご案内

【特設展示期間】7月24日（水）まで

🌸 一般むけ 『続百代の过客』で読む「航西日記」
「お札とお札になった人々」

過去の新紙幣発行時の新聞記事、関連図書 など

【場所】中央図書館1階エントランス及び
総合カウンター前

🌸 児童むけ 「日本経済界の父・飛鳥山と縁が深い
渋沢栄一がお札になった！」

【場所】区内各図書館児童コーナー

【常設展示】関連書籍、DVD「青天を衝け」など

【場所】中央図書館「北区の部屋」

平和祈念週間

北区では、1986年（昭和61）に制定した平和都市宣言を記念して、8月6日から10日を平和祈念週間と位置づけ平和展を実施します。北区立中央図書館は🌸2つの展示🌸で参加します。

【開催場所】北とぴあ地下1階 展示ホール

【開催期間】8月6日（火）～10日（土） 10時～18時（10日のみ16時まで）

テーマ①『戦争と北区の子どもたち』 黒川地域資料専門員

②『ドナルド・キーンと平和2024』 北区図書館活動区民の会

※①は8月11日（日）から、②は8月6日（火）から中央図書館で展示します。

期間は①②とも8月31日（土）までです。

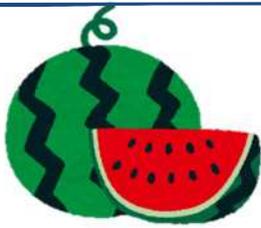
北区図書館は <平和図書コーナー> を開設し、本を通じて平和について考えるきっかけになるような本を集め展示します。

【期間】7月26日（金）～8月31日（土）休館日除く

【場所】（一般書）中央・滝野川・赤羽図書館

（児童書）図書館全館（子ども室・子どもコーナー等）





北区の部屋だより

第180号

2024年8月



刊行物登録番号5-2-167

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」 〒114-0033 北区十条台1-2-5 電話03-5993-1125 令和6年8月発行



江戸時代の三ツ星シェフ?!

海老屋のなべ金蔵 きんぞう

かつて民放TVで「料理の鉄人」という番組が放送されていました。鉄人と呼ばれる料理人と挑戦者が課題の食材をいかに美味しく料理するか対決するバラエティ番組で、ご記憶の方も多いのではないかと思います。思い返せば私はこの番組を通じて初めて「お店」ではなく、その裏にいる料理人という人を意識することになったかと思えます。

お店ではなく料理人、美食家の方々からすれば何を当たり前のことをいっているのかとお叱りを受けそうですが、実は江戸時代から、こうした「名に聞こえたる料理人」を訪ね歩く美食家たちがいたようです。

こうか 弘化4年(1847)に みますや にぞうじ 三升屋二三治が著した きせんじょうげこう 『貴賤上下考』という ずいひつ 随筆には、 きょうわねんかん 享和年間(1801~1804)から文化・文政期(1804~1831)にかけて、江戸の料理屋では名高き料理人を召し抱えることが流行り、こうした料理人が実際にその店を繁昌させていたことを記しています。そして、この随筆で「名に聞へたる」料理人として最初に紹介されているのが えびや 王子海老屋のなべ金蔵という人物です。「世の中の通り者等は料理人をたずねてその内へ行」とあって、江戸の美食家たちは、店というより料理人を名指しして食べていたようです。

さて、このなべ金蔵、しばらくの間海老屋で腕を振るっていたものと思われそうですが、この本が刊行された頃にはすでに店にいなかったようで、本には彼の得意料理だった「長いも玉子焼」が現在でも店の名物として残っていることが記されています(原文は「今にその種を残して長いも玉子焼のこる」)。

この「長いも玉子焼」ですが長芋料理と玉子焼きという二種類の料理と理解していいのか、それとも、例えば長芋を混ぜ込んだふわふわの玉子焼きのような一品の料理と理解していいのか解釈が難しく定かではありません。それでも海老屋に玉子を使った名物料理があったことに間違いはないでしょう。

「玉子焼」といえば、同じく王子の料理屋で、まさに海老屋の隣りで営業していた扇屋が有名ですが、実は海老屋も「玉子焼」を売りにしていたのです。

店では、高い給金を払ってまで高名な料理人を雇っていたといいますが(原文は「茶屋にて高金を出して料理人をかゝへしものといふ」)、それでも店の名物となる料理を こしらえ 拵えてくれて、実際に店が繁昌するのであれば、店にとっては安いものだったのではないのでしょうか。

【地域資料専門員：保垣孝幸】



北区の部屋 今月の展示



北区 の 街 路 樹



★展示期間：7月26日（金）～8月21日（水）

★展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

暑い日が続いています。こうした日に道を歩くと街路樹の木陰を嬉しく感じ、あらためてそのありがたさに気づかされます。そこで今回の展示では、普段は何気なく見過ごしていると思われる北区の街路樹について紹介します。



平和図書コーナー開設しました！



図書館では、北区をあげて行われる平和祈念週間のイベントの一環として、区内全図書館に「平和図書コーナー」を開設しました。本を通じ、皆様が平和について考えるきっかけになればと願っております。

- ◆開催期間：令和6年7月26日（金）～8月31日（土）
- ◆開催場所：一般向け・・・中央・滝野川・赤羽図書館
子供向け・・・区内全図書館の子ども図書のコーナー

中央図書館では8月6日（火）～8月10日（土）まで北とぴあ地下1階展示ホールで開催される平和展にパネル展示で参加します。

この展示は「ドナルド・キーンと平和 2024」は8月6日から、「戦争と北区の子どもたち」は8月11日から、ともに8月31日まで中央図書館でも展示いたします。



* 昨年の平和図書コーナー



夏休み★調べ学習に

「北区の部屋」を活用しませんか？

「北区の部屋」には北区に関する本、地図、写真、古文書など、たくさんの地域資料があります。また、北区のことならなんでも知っている地域資料専門員の先生が2人もいます！（*）

夏休みの自由研究や調べ学習のヒントになりそうなものや、その答えがきっとみつかるはず！

この夏、自分の住んでいる街の歴史を調べてみませんか？もちろん大人の方も、北区のことや調べたい事や知りたい事があれば気軽に「北区の部屋」にいらしてください。お待ちしております♪



* 地域資料専門員の出勤日は「北区立図書館」HPか直接図書館にお電話でご確認ください。